

磯根資源の資源管理高度化事業

下前 敦・藤崎 博

ウニ・アワビ・サザエ・ナマコ等に代表される磯根資源は当県の沿岸漁業における重要な漁業資源であり、特にウニ・アワビ・ナマコは種苗放流が積極的に行われ、資源の増大が図られている。資源を持続的に利用するためには、対象海域の漁獲の実態を明らかにし、科学的データに基づく適切な資源管理を実施することが重要である。本事業では、ウニ・アワビ・サザエを漁獲する海士漁業を対象にした操業日誌調査と、マナマコを漁獲する桁網曳漁業を対象にした操業調査を行い、磯根資源の資源管理に資する漁獲データを収集した。

方法

1. 海士漁業操業日誌調査

当県海域の2地区において海士漁業を行う漁業者に、操業日誌調査を依頼した。調査海域はA・B海域とし、各海域の調査期間および調査人数は表1のとおりとした。日誌には操業日・操業時間・対象種としたアカウニ・アワビ・サザエの種別の漁獲量の記入を依頼した。アカウニ・アワビは漁獲個数を記録し、サザエは漁獲重量を記録した。

2. マナマコ漁業操業調査

マナマコ資源と漁獲実態の基礎データ収集のため2025年2月10日にD海域において、桁網曳漁船10隻による操業調査を行った。操業調査は各船で操業時間および1曳網ごとのマナマコ漁獲重量を記録した。

結果

1. 海士漁業操業日誌調査

調査海域ごとの1日当たりの平均操業時間はA海域で6.5時間、B海域で2.7時間であった（表2）。調査海域ごとの漁業者1人当たりの単位時間当たり平均漁獲量を表3に示した。

2. マナマコ漁業操業調査

操業調査で出漁した10隻の総操業時間は32時間であり、総漁獲量773.1kgであった。各船の操業時間・漁獲量・単位時間当たりの漁獲量を表4に示した。

表1 調査海域ごとの調査期間および調査人数

調査海域	調査期間	調査人数
A	2024/4/9 ~ 9/30	5
B	2024/4/1 ~ 2/26	7

表2 調査海域ごとの1日あたりの平均操業時間

調査海域	平均操業時間 (h)
A	6.5
B	2.7

表3 調査海域ごとの漁業者1人・1時間当たり平均漁獲量 (単位は、アカウニ・アワビ:個/人・時間、サザエ:kg/人・時間)

調査海域	CPUE		
	個体数 (個) / 人 / 時間 (h)		重量 (kg) / 人 / 時間 (h)
	アカウニ	アワビ	サザエ
A	2.9	0.4	2.2
B	1.1	2.6	6.0

表4 マナマコ操業調査における各船の操業時間(h)・漁獲量(kg)・単位時間当たりの漁獲量(kg/h)

ID	操業時間 (h)	漁獲量 (kg)	漁獲量 (kg) / 操業時間 (h)
1	3	36.8	11.4
2	3	37.1	11.4
3	4	74.1	19.3
4	3	234.4	80.4
5	3	18.7	5.4
6	3	26.2	9.2
7	4	97.7	23.4
8	3	190.8	66.2
9	4	41.1	11.5
10	1	16.3	11.8
合計	32	773.1	25.0